

# 高齢職員の能力・経験の活用等に関する検討会（第3回）

## 議 事 概 要

1 日 時 平成26年2月19日（水） 14:00～16:00

2 場 所 経済産業省別館 1階 114会議室

3 出席者（50音順、敬称略）

武田 俊彦（座長）、越後谷 晃、岡本 達也、君嶋 幸夫、菅澤 信博、副島 将司、  
本山 和平、森本 祐司、八上 弥一郎、矢島 啓志、山口 勝、北浦 哲（代理出席）

4 議事次第

(1) 開 会

(2) 議 事

ア 高齢職員の能力・経験の活用等に関する検討会報告書（案）について

イ その他

(3) 閉 会

5 議事の経過

事務局から議事について説明後、各委員からの資料についての質問、論点や検討課題などについて議論した。各委員の主な意見は以下のとおり。

- ・ 当市の消防本部は小規模消防本部であり、定員に対する司令長以上の階級者が占める割合は非常に小さいといえるが、司令長以上のポストには年齢層が高く、退職を間近に控えた者が常に入っている状態である。当該ポストの職員の退職が毎年継続する見込みであり、全国的にみても当市と同様なケースの消防本部は非常に多いのではないかとと思われる。こうしたことから、特定警察職員等の6年遅れという部分についてはあまり強調しないほうが良いのではないだろうか。
- ・ 現在のところ、当市の市長部局と消防本部の連携はとれている状態ではあるが、今後は市長部局の方も退職者の増加が見込まれているため、消防職員を受け入れてもらえなくなる可能性もある。そういった状況に備え、消防本部における再任用職員の配置可能なポストのピックアップを行っているところである。
- ・ 当市の消防本部は、現在のところ交替制勤務に再任用職員を配置していないが、3部制に短時間で再任用職員を配置することを想定した場合、乗車人員の欠員が出てくることが考えられるため、人員確保の面で影響を与えないように配慮する必要がある。
- ・ 消防活動は、予期せぬ急激な行動をするものであり、心拍数、血圧の上昇が考えられ、高齢者ゆえに脳や心臓等に過大な負担がかかるのではないかと感じている。前段において、消防活動は非常に体力が必要で若手職員がなくてはならないと言っているが、短時間なら問題がないというように受け止められる可能性がある記載となって

いるため、この部分については現場の声として、活動の危険性等を踏まえた形の表記の方が良いのではないかと。

- ・ 高齢職員を警防の最前線で使っていくということは、衛生管理や健康管理等の面から考えて非常にリスクが高いと考えている。夜間の災害出場時に急に起き上がって出動するというのは、身体的な負担が大きいのではないかと考えており、当市では最前線から外していきたいという思いがある。そういったことから、短時間の職での活用を積極的に行うという趣旨の記載は避けてもらいたい。
- ・ 加齢困難職種の今後の取扱いという部分について、副大臣通知等において、今後の円滑な遂行に支障が生じないように、必要な措置について検討していく旨の表記がされており、また、特定警察職員等については年金の支給開始が6年後からといったことを踏まえて、早急に結論を出さなくても良いのではないかとという意見も前回の検討会において出ている。健康管理、衛生管理という部分で、現場の職員の体力及び健康状態の部分をもう少し検証していくべきではないかと思っている。平成24年度の全国消防長会で検討された結果として、定数管理、体力管理及び消防力の低下等の課題事項についてしっかりとその方向性を結論づけられていないため、全国消防長会で再度議論をしていただくようお願いをしてはどうか。あるいは高齢者の基礎疾患率が高いということを考慮して、60歳以上の職員が災害活動に従事した場合の身体に与える影響、例えば出動指令時及び災害活動中の血圧の状況、血中のヘモグロビン濃度の変化等、様々な科学的な検証をした中で結論づけていくべきではないか。
- ・ 当市においては、原則フルタイムでいくという方針が示されている。消防職員については、主に現場での再任用を考えており、現在のところ、司令以下については、消防署の当番員という形で、消防署の通信指令、比較的現場に出動する機会の少ない特殊車担当の消防隊等に配置している。来年度の4月以降は、出張所の消防隊の隊員や比較的出動が少ないところから配置をしていく予定である。また、司令長以上の再任用についても来年度から配置する予定であり、これまで非常勤嘱託員を配置していた毎日勤務の予防業務等に配置し、非常勤嘱託員のポストを再任用に振り替えていく方針である。
- ・ 今後、当市で再任用職員を交替制に配置することを想定した場合、フルタイムを選択する職員が多くなると考えている。そうすると、定数管理上の問題が生じることは間違いない。定数管理に関しては、各消防本部の運用に委ねる書きぶりになっているが、この内容では市長部局の理解は得られないと思われる。全国消防長会だけでなく、全国市長会等にもしっかりと消防の特殊性について理解してもらえるような働きかけをお願いしたい。
- ・ 市長部局等への再任用を考えた場合、交替制勤務から事務的な業務にスムーズに移行ができるようなジョブローテーションや研修等の仕組みの整備をお願いしたい。
- ・ この検討会にあわせて、県の消防長会や消防学校を含めて一緒に勉強を進めてきたが、その中で退職後のライフプランを描いている消防吏員が非常に少ないと感じた。市長部局が行うライフプランセミナーに参加している消防も少なく、県内の多くの消防本

部において再任用に向けての動機づけすらされていないため、そういった動機づけをするような環境づくりが必要であると感じた。また、人材育成・能力開発の部分に関して、ジョブローテーション以外は、一つの消防本部ではなかなか難しいと思われるため、教育機関等の役割が必要ではないだろうか。